

## 須崎農業振興センター高南農業改良普及所

管内市町村 管内 J A	四万十町（1町） 四万十農業協同組合、高知はた農業協同組合（2 J A）
地域の概要 ・産地の特徴 ・主な園芸品目	<p>海岸部の興津地区でミョウガ等の施設野菜、台地部の窪川地区は良質米産地として県内有数の稲作地帯であり、水田農業を中心としてショウガ等の露地野菜とニラ、キュウリなどの施設園芸・畜産、山間部の大正・十和地区ではシントウやナバナ、ユズ、茶など地域の特性を活かした営農が展開されている。また、台地部を中心に集落営農の取り組みが進んでおり、組織数は県内の約4割（80組織）を占め、法人も5組織設立されている。</p> <p>海岸部（興津）：ミョウガ・ピーマン 台地部（窪川）：ニラ・イチゴ・ショウガ・夏秋ピーマン・水稻 山間部（大正・十和）：夏秋シントウ・ナバナ・スプレーギク・ユズ・栗 集落営農組織：80組織（うち、こうち型集落営農組織9、法人組織5）</p>
地域の課題と 重点的な取組	<p>管内農業は生産者の高齢化や後継者不足による担い手の減少、耕作放棄地の増加が進行する中、生産・流通コストは上昇傾向にあり、一方農産物価格は低迷するなど農家経営は厳しい状況が続いている。</p> <p>このため、ミョウガ、ニラ、ショウガ、水稻などの主要品目を中心に町や J A と連携して、農家の所得向上を図るため栽培技術の向上やコスト低減、経営管理能力の向上などにより経営強化を図るとともに、担い手の育成確保により産地の維持・発展に取り組む。また、水田農業では米のブランド化を推進するとともに、集落営農組織の広域化や法人化を推進し、地域農業を支える仕組みを強化する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生産力向上と高付加価値化による産地の強化       <ol style="list-style-type: none"> <li>①次世代施設園芸システムの普及推進 (環境制御技術等導入による収量・品質向上)</li> <li>②環境保全型農業の推進 ( I P M 技術等による安全安心な農産物生産を強化)</li> <li>③園芸品目別総合戦略の推進 (栽培技術の高位平準化による収量・品質向上)</li> <li>④水田農業の振興（米のブランド化）</li> </ol> </li> <li>2 中山間地域を支える仕組みの再構築       <ol style="list-style-type: none"> <li>①集落営農の推進（法人化等によるステップアップ）</li> </ol> </li> <li>3 生産を支える担い手の確保・育成       <ol style="list-style-type: none"> <li>①新規就農者の確保・育成（産地提案型による新規就農者の確保・育成）</li> <li>②家族経営体の強化及び法人経営体の育成（経営改善等）</li> </ol> </li> </ol>

<p>人員配置</p>	<p>平成27年度職員総数 14名（うち実務経験が3年未満の職員1名）</p> <table border="1" data-bbox="491 253 1348 595"> <tr> <td>農業改良普及所長</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>地域営農担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第一担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：窪川・興津地区)</td> </tr> <tr> <td>産地育成第二担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：大正・十和地区)</td> </tr> </table>	農業改良普及所長	1名	地域営農担当	チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)	産地育成第一担当	チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：窪川・興津地区)	産地育成第二担当	チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：大正・十和地区)
農業改良普及所長	1名								
地域営農担当	チーフ1名 普及指導員4名 (担当エリア：全域)								
産地育成第一担当	チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：窪川・興津地区)								
産地育成第二担当	チーフ1名 普及指導員3名 (担当エリア：大正・十和地区)								
<p>普及活動の 進ちよく管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総合課題は複数の部門担当によるチーム活動、個別課題では部門担当を基本として活動している。</li> <li>・ 総合課題はチーム長が毎月チーム会を開催して進捗状況を確認、さらに毎月の職員会でも報告し、所長・チーフ等による活動方法などの助言、取組の共有を図っている。</li> <li>・ 個別課題はチーフが進捗管理を行い、活動方法などの助言を行い、目標達成にむけて支援を行っている。</li> <li>・ 両課題とも四半期ごとに活動実績の取りまとめ、職員会で進捗状況を確認・共有している。</li> </ul>								
<p>職員の資質向上 の取組状況</p>	<p>●職場研修</p> <p>1 課題解決能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普及課題解決の進捗状況や対象の変化に応じた計画活動の検討 協同農業普及事業の見直しと今後の普及活動の展開方向について説明を受け、今後の普及活動の進め方などについて研修した。(講師：環境農業推進課 専門技術員)</li> </ul> <p>2 知識・技術の修得、所内情報の共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業担い手育成センターとの連携活動について 農業担い手育成センターの取組について説明を受け、センターの取組との連携による効果的な農業の担い手確保・育成にむけた普及活動を研修した。(講師：農業担い手育成センター チーフ)</li> <li>・ 農地中間管理事業による農地の集積について 普及活動の課題である農地の流動化対策について、制度の仕組みや取組事例について研修した。(講師：高知県農地中間管理機構 チーフ)</li> </ul> <p>●新任者を対象にしたOJT</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トレーナー研修 普及指導方法、主要作物の栽培管理、養液分析手法、病虫害診断、環境制御技術等</li> <li>・ 現地実践研修 専門知識の習得、課題解決能力、調査研究能力の向上を図るため助言指導(先輩職員に同行)</li> </ul>								

●国段階研修（平成27年度）

新規採用普及職員研修	1名
------------	----

GAP導入支援研修	1名
-----------	----

●県段階研修（平成27年度）

自主企画課題解決研修（花き IPM 技術、伝統作物の保存、 カンキツ IPM 技術）	3名
---	----

上記の他、県内専門技術高度化研修などへも参加。また、県職員として資質向上を図るため一般能力開発研修（「マニュアル作成による業務の効率化」等）へも参加。